

常用対数表(一)

Table of common logarithms (常用対数表) with columns for numbers 0-9 and rows for values from 1.0 to 5.4.

小数第5位を四捨五入し、小数第4位まで掲載している。

1 次の各問に答えよ。(40点)

問1 0 < theta < pi/2 とする。cos theta は有理数ではないが、cos 2theta と cos 3theta がともに有理数となるような theta の値を求めよ。

問2 次の定積分の値を求めよ。(20点)

Integral from 0 to pi/2 of (x dx) / (cos x)

2 f(x) = x^2 + 2x^2 + 2 とする。|f(n)| と |(n+1)| がともに素数となる整数 n をすべて求めよ。(30点)

3 鋭角三角形 ABC を考え、その面積を S とする。0 < t < 1 をみたす実数 t に対し、線分 AC を t:1-t に内分する点を Q、線分 BQ を t:1-t に内分する点を P とする。

4 1つのさいころを n 回続けて投げ、出た目を順に X1, X2, ..., Xn とする。このとき次の条件をみたす確率 p を用いて表せ。

5 半径 1 の球面上の 5 点 A, B, C, D, E は、正方形 D1B1B2D2 を底面とする四角錐をなしている。

6 i は虚数単位をよ。 (1+i)^n + (1-i)^n > 10^n をみたす最小の正の整数 n を求めよ。(35点)

常用対数表(二)

Table of common logarithms (常用対数表) with columns for numbers 0-9 and rows for values from 5.5 to 9.8.

小数第 5 位を四捨五入し、小数第 4 位まで掲載している。

京大数学解答例

<京進相当>

問1 cos^2 theta = (1+cos 2theta)/2 であり、cos 2theta は有理数だから、cos^2 theta は有理数である。

cos 3theta = 4cos^3 theta - 3cos theta = cos theta(4cos^2 theta - 3)

であり、①により 4cos^2 theta - 3 が 0 と異なる有理数であれば、cos theta = cos 3theta / (4cos^2 theta - 3) ...

と表され、cos 3theta が有理数であることから②の右辺は有理数となり、cos theta が有理数でないことに反する。

4cos^2 theta - 3 = 0, cos^2 theta = 3/4, cos theta = +/- sqrt(3)/2, theta = pi/6

が必要である。このとき、cos theta = cos pi/6 = sqrt(3)/2 であり、3 は素数であるから sqrt(3) は有理数ではないため、確かに sqrt(3) は有理数でない。

求める値は theta = pi/6 ... (答)

問2 (1) Integral from 0 to pi/2 of (x dx) / (cos x) = [tan x] from 0 to pi/2 - Integral from 0 to pi/2 of tan x dx = pi/4 + log 2

(2) Integral from 0 to 1 of (x dx) / (1-x^2) = -1/2 log |1-x^2| = -1/2 log |(1-x)(1+x)|

1/2 [-log |1-x| + log |1+x|] from 0 to 1 = 1/2 [-log(1-1/2) + log(1+1/2)] = log(3/2)

2 n+1 は連続する整数なので、どちらかは偶数である。x が偶数のとき f(x) = n^2 + 2n^2 + 2 の各項はすべて偶数であるから f(x) も偶数である。

(1) n^2 + 2n^2 + 4 = 0 のとき n^2 + 2n = -4, n^2 は負でない整数であり、n+2 < 0 から n+2 は -4 の約数であるから n+2 = -4, -2, -1, 1 などあり

(2) n^2 + 2n^2 = 0 のとき n^2 + 2n = 0, n = -2 のとき、|f(n)| = |f(-1)| = 3, n = 0 のとき、|f(n)| = |f(1)| = 5

したがって、|f(n)|, |f(n+1)| がともに素数となる整数 n は n = -3, -2, -1, 0 ... (答)

問3 四面体において、点 A, B, C の座標を A(a, 0, 0), B(0, 0, c), C(0, 0, c) とし、O(0, 0, 0) とする。

点 P は線分 AC を t:1-t に内分するから P(x, y) とすると x = at + c(1-t), y = ct(1-t)

点 Q は線分 BC を t:1-t に内分するから Q(0, ct, c(1-t))

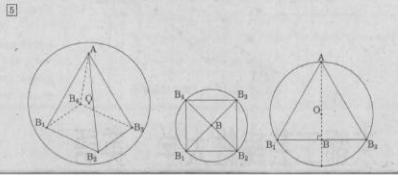
線分 PQ の長さ L = sqrt((at)^2 + (ct(1-t))^2 + (ct(1-t))^2) = sqrt(a^2 t^2 + 2c^2 t(1-t)^2)

さいころを 1 回投げたとき、1, 2, 3 または 4 が目が出る事象を L, 5 または 6 が目が出る事象を H とすると

L が起こる確率は 4/6 = 2/3, H が起こる確率は 2/6 = 1/3

条件を満たすには、1 <= k <= m <= n とし、k 回目から m 回目まで事象 H が起こり、それ以外は事象 L が起こるので、求める確率は

Sum from k=1 to n of Sum from m=k to n of (2/3)^(k-1) * (1/3)^(n-k+1) * (2/3)^(n-m)



B_1, B_2, B_3, B_4 は同一球面上の4点で正方形をなすから、同一円周上に存在する。
 半径1の球の中心を O 、正方形 $B_1B_2B_3B_4$ の対角線 B_1B_3, B_2B_4 の交点を B 、四角錐 $AB_1B_2B_3B_4$ の
 体積を V 、正方形 $B_1B_2B_3B_4$ の面積を S とする。
 点 B を通り正方形 $B_1B_2B_3B_4$ に垂直な直線 l を考えると、 l 上に点 O がある。
 ここで、正方形 $B_1B_2B_3B_4$ を固定した場合に V が最大となるのは、球面と l の2交点のうち、点 B
 との距離が小さくない方を A としたときである。

そのとき、 $OB = x$ ($0 \leq x < 1$) とおくと
 $B_1B = \sqrt{OB^2 - OB^2} = \sqrt{1-x^2}$
 $\therefore B_1B_3 = 2B_1B = 2\sqrt{1-x^2}$

よって
 $S = \frac{1}{2}(2\sqrt{1-x^2})^2 = 2(1-x^2)$

また
 $AB = AO + OB = 1+x$

と表せば
 $V = \frac{1}{3} \cdot S \cdot AB = \frac{2}{3}(1-x^2)(1+x) = \frac{2}{3}(1+x)^2(1-x)$

ここで
 $f(x) = (1+x)^2(1-x)$

とおくと
 $f'(x) = 2(1+x)(1-x) - (1+x)^2 = -(x+1)(3x-1)$

$f'(x) = 0$ とすれば $x = -1, \frac{1}{3}$ であるから、増減表は右のよう
 になり、 $f(x)$ の最大値は

$$f\left(\frac{1}{3}\right) = \left(\frac{4}{3}\right)^2 \cdot \frac{2}{3} = \frac{32}{27}$$

である。
 ゆえに、 V の最大値は
 $\frac{2}{3} \cdot \frac{32}{27} = \frac{64}{81}$
 である。

x	0		$\frac{1}{3}$		(1)
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$			/	\	

6 $(1+i)^n + (1-i)^n = (\sqrt{2})^n (\cos \frac{n\pi}{4} + i \sin \frac{n\pi}{4})^n + (\sqrt{2})^n (\cos(-\frac{n\pi}{4}) + i \sin(-\frac{n\pi}{4}))^n$
 $= (\sqrt{2})^n (\cos \frac{n\pi}{4} + i \sin \frac{n\pi}{4})^n + (\sqrt{2})^n [\cos(\frac{n\pi}{4}) - i \sin(\frac{n\pi}{4})]^n$
 $= 2(\sqrt{2})^n \cos \frac{n\pi}{4}$

よって、 $2(\sqrt{2})^n \cos \frac{n\pi}{4} > 10^{10}$ を満たす最小の正の整数 n を求めればよい。

$$f(n) = 2(\sqrt{2})^n \cos \frac{n\pi}{4}$$

とおくと、 $\cos \frac{n\pi}{4} \leq 1$ より

$$f(n) \leq 2(\sqrt{2})^n = 2^{\frac{n+2}{2}}$$

ここで対数表より、 $\log_{10} 2 < \frac{10}{23} = 0.3030 \dots$ なので

$$\log_{10} 2 < \frac{10}{23} \Leftrightarrow 33 \log_{10} 2 < 10$$

$$\Leftrightarrow \log_{10} 2^{33} < 10$$

$$\Leftrightarrow 2^{33} < 10^{10}$$

よって、 $2^{\frac{n+2}{2}} \leq 2^{33}$ となる n すなわち $n \leq 64$ では $f(n) < 10^{10}$ となる。

$$f(65) = 2(\sqrt{2})^{65} \cos \frac{65\pi}{4} = 2^{33} < 10^{10}$$

$$f(66) = 2(\sqrt{2})^{66} \cos \frac{66\pi}{4} = 0 < 10^{10}$$

$$f(67) = 2(\sqrt{2})^{67} \cos \frac{67\pi}{4} < 0 < 10^{10}$$

$$f(68) = 2(\sqrt{2})^{68} \cos \frac{68\pi}{4} < 0 < 10^{10}$$

$$f(69) = 2(\sqrt{2})^{69} \cos \frac{69\pi}{4} < 0 < 10^{10}$$

$$f(70) = 2(\sqrt{2})^{70} \cos \frac{70\pi}{4} = 0 < 10^{10}$$

$$f(71) = 2(\sqrt{2})^{71} \cos \frac{71\pi}{4} = 2^{36}$$

ここで対数表より、 $\log_{10} 2 > \frac{10}{36} = 0.277 \dots$ なので

$$\log_{10} 2 > \frac{10}{36} \Leftrightarrow 36 \log_{10} 2 > 10$$

$$\Leftrightarrow \log_{10} 2^{36} > 10$$

$$\Leftrightarrow 2^{36} > 10^{10}$$

すなわち $f(71) > 10^{10}$ であるので 求める n の値は 71

(2月26日(火) 京都新聞)